

# 記念寄稿

## —大学他部門在籍者—

※50 音順とさせていただきますが、編集の都合上前後しておりますこと、ご了承ください。



三俣蓮華岳付近から望む槍・穂高連峰  
槍ヶ岳 3180m 2回登頂、奥穂高岳 3190m 8回以上登頂

## 石橋俊教授の退任を祝す

---

自治医科大学 学長 永井 良三

石橋俊教授のご退任にあたり、ご挨拶を申し上げます。石橋教授は、昭和 57(1982)年に東京大学医学部を卒業、内科研修の後、東京大学第三内科に入局されました。第三内科では、脂質代謝グループに属され内分泌代謝内科学を中心に研鑽を積まれました。平成元(1989)年に米国 University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas に留学、ノーベル賞学者である Brown 博士と Goldstein 博士のもとで分子代謝学の研究に従事され、帰国後は、糖尿病代謝内科講師を経て、平成 13 年(2001)年 6 月に自治医科大学内科学講座内分泌代謝内科部門教授に就任されました。

石橋教授は脂質代謝学を軸として、基礎から臨床まで幅広く内科学を修められ、とくに脂質代謝異常と深いかかわりをもつ動脈硬化学の第一人者としても活躍されています。今年7月には、宇都宮市で日本動脈硬化学会学術集会を主宰される予定で、先生ご自身の学術の集大成をお聞きできることを楽しみにしております。

自治医科大学病院では、内分泌代謝疾患全体の診療に加えて、平成 21(2009)年からは、糖尿病センター長として、地域の糖尿病ケアを牽引されました。また平成 24(2012)年からは臨床栄養部長として、栄養指導や給食にも尽力してこられました。

石橋先生のご研究は、留学中に LDL 受容体や ApoE 蛋白の遺伝子欠損マウスを用いて LDL 蛋白のクリアランスの仕組みを明らかにするなど、一貫して分子遺伝学の手法を駆使し、代謝疾患の病態に焦点を当てています。東大の助手時代、先生は地道に努力され、心から研究を楽しんでおられる様子でした。その姿勢は、本学でも一貫して変わらなかったと思います。

最近、日本の研究力の低下が懸念されています。2000 年頃から留学する研究者が減り、日本から発表される論文数や、トップ 1%の引用論文の数も大きく減少しています。しかしいかに多忙であっても、知的好奇心をもち、それぞれの場で可能な研究を推進することは大学人の務めです。石橋先生が示されてきた研究に対する姿勢、とくに研究を楽しむ心の大切さを、次の世代が継承していただければと思います。

石橋先生はご退任後、羽生市で地域医療の一線に立たれます。研究の真髄を極められた先生が、これまでのご経験を活かして取り組まれますと、従来の地域医療とは異なる独自の展開をなされるのではないかと期待しております。健康に気を付けられて、益々ご発展されますようお祈り申し上げます。

## 石橋教授ご退任に寄せて

---

自治医科大学副学長・皮膚科学講座教授 大槻 マミ太郎

石橋先生、ご退任おめでとうございます。石橋先生とは東大の病棟医長時代からのおつき合いで、私は3年早く自治医大に(助教授として)赴いたのですが、教授として赴任されたのは石橋先生の方が3年先でした。自治医大では、石橋先生が尽力されてきた糖尿病センター合同カンファランスで皮膚科との連携の話題や特別講演も取り入れていただき、心より感謝申し上げます。

誰に対しても歯に衣着せぬ石橋先生のツッコミは、私には真似できない直球、ときに剛速球でした。また、石橋先生は研究がお好きなイメージでしたが、日常の多忙な外来において、多くの患者さんの中から貴重な症例を発掘される名人だったともうかがっています。臨床的にも卓越した能力をお持ちだった石橋先生は、自治医大の宝であったと確信しています。

副学長としてもっともっと支援したかった気持ちもありますが、至らぬ点をご退任を機にご海容いただき、今後もお後進の指導、医学の進歩にご尽力いただければ幸いです。

どうかお健やかに！

## 感恩報謝

---

外来看護師

新井 茉美

石橋先生、ご退官おめでとうございます。

19年前、私が就職した時には石橋先生は内分泌代謝科の教授でおられました。私自身は途中で循環器の病棟で仕事をした時期もありましたが、延べ10年くらい石橋先生にお世話になりました。

内分泌代謝科の病棟で働いていた頃は、医局旅行や歓送迎会、お花見など様々な行事に参加させていただきました。たくさんの「あの頃は若かったな」と思える思い出が回想されます。

糖尿病看護認定看護師になり外来で働き出してから、不慣れな私にたくさんの支援をいただきました。また、外来や糖尿病合同カンファレンスの場などでも看護師の意見に耳を傾け、反映させていただいたことも大変嬉しく、有り難く感じておりました。

療養支援外来では、先生が退官されると聞いた患者様から「石橋先生がいなくなってしまうと不安です」「寂しいです」という声をたくさん聞きました。いつも穏やかにお話をされる先生は、患者さんからも多くの信頼を得ているのだと改めて感じる機会となりました。私も患者様からそう思ってもらえる医療者になれるよう、これからも精進していこうと思います。

長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

今後もたくさんの場面で活躍されることを心から祈念しております。

看護師 新井茉美



キャンパス二次会での余興

## 石橋先生のご退任に寄せて

生理学講座神経脳生理学部門

尾仲 達史

石橋先生、自治医科大学において22年間本当にお疲れさまでした。これまでの長年にわたるご指導に深く感謝申し上げます。また、退任にあたっての記念誌に文章を書く機会を与えていただいたことに感謝いたします。

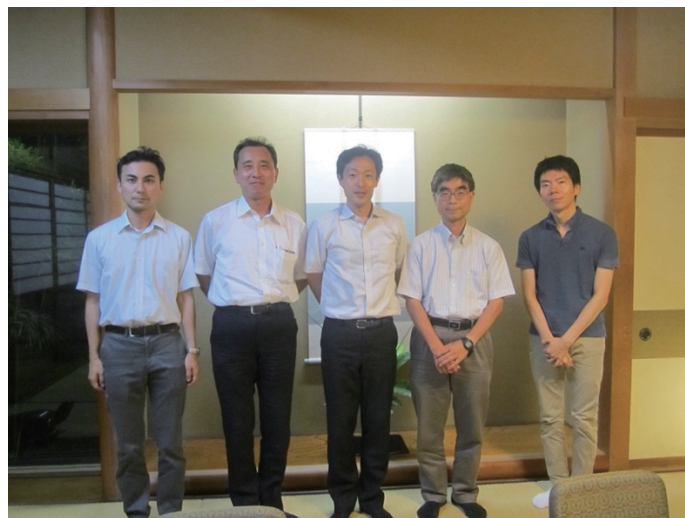
内分泌代謝内科から医局の先生方が生理学講座に研究に来られていたこともあり、長い間本当にお世話になりました。

石橋先生が自治医科大学に来られて間もないころ、学内で論文をどう書くかというシンポジウムが開催されました。そこに先生がシンポジストとして参加しておられました。既に多くの業績を挙げて自治医科大学に来られた先生が、これからも学んでいきたいというとても真摯で謙虚なお言葉を述べられたのを今でも覚えています。その言葉にたがわず、ご専門の脂質代謝から幅広く研究を発展させ、臨床・基礎研究の領域において内分泌代謝科を世界をリードする教室に育て上げられたことは皆様のご存じの通りです。

30周年記念誌に先生は「内分泌代謝疾患におけるゲノム・ポストゲノム・再生医療・遺伝子治療などの先端的な領域に独自の貢献ができる日の到来を夢見ています」と書かれておられます。先生の真摯のご指導でこの夢が達成されつつあることと存じます。

この3年間、COVID-19感染対策の中、研究が困難な時期もありましたが、先生は精力的に研究を推進されてこられました。今見てみますと、この22年間の間に私が属する教室でエネルギー消費量測定をしていたこともあって共同研究させていただき、4報共著とさせていただいています。いずれも先生の渾身の研究で、これに加えていただき、とても勉強になりました。

石橋先生、22年間、臨床、研究、教育と本当に激務をこなされ、お疲れさまでした。今後、益々ご活躍されることは存じますが、是非ご健康にも気を付けられますようお願い申し上げます。これからは是非、折につけご指導賜れますようお願い申し上げます。



セミナーの慰労会、群馬大学（当時）佐々木努先生を囲んで

## 石橋 俊教授への感謝

---

循環器内科

荻尾 七臣

石橋 俊先生のご退官に際し、栃木県での医療ならびに啓発活動、また同じ内科学講座の中で、長きにわたり身近でご指導をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。石橋先生とは、最も長いお付き合いで、栃木県で循環器領域と内分泌領域の講演会や院内の様々な委員会や内科学講座全体会議など通じて大変多くの有意義な時間を共に過ごさせていただきました。

大学病院は臨床、研究、学生教育、さらに病院経営管理が求められ、ますます忙しくなっています。その中においても、独創性の高い病態機序に関わる基礎研究を在任中継続して推し進められましたことに敬意を表します。研究成績を常に学術論文として一流紙に発表され続けたことは、私にとりましても大きな励みになっておりました。また、循環器リスクを有する患者の長期観察レジストリー研究や新規の糖尿病薬や高脂血症薬などの薬物介入臨床試験など、数多くの臨床研究もご一緒させていただき、学術的なディスカッションができたことは、大変良い思い出となっています。

臨床においても、内分泌代謝内科と循環器内科が常に密接に連携を保ち、大学病院として質の高い診療が行えたことを大変嬉しく思います。大学病院の糖尿病患者は、糖尿病性腎症が進行していることに加え、重症冠動脈疾患や心不全が背景に隠れていることも多く、さらに脳・腎血管障害などを合併した多血管病患者の診療や、治療抵抗性高血圧など2次性高血圧が疑われる高血圧患者においても、副腎静脈サンプリングを当科が、負荷試験を内分泌内科が担当し、2つの科が連携して、原発性アルドステロン症やクッシング症候群などの診断・治療に当たらせていただきました。石橋先生は診療科横断的な多職種参入型の糖尿病センター合同カンファランスを主宰されておりました。そこでは、複数の科にまたがる症例を中心に、看護師、栄養士、薬剤師などメディカルスタッフも加わり、積極的な情報交換が行われており、循環器内科が心不全多職種カンファを行う際にも大変参考になりました。

最後に、石橋先生が会長として「地域医療における動脈硬化」をテーマに宇都宮で行われます第55回日本動脈硬化学会総会・学術集会の大成功を祈念いたします。これまで石橋先生から受けた多くのご指導に心より感謝申し上げるとともに、長年にわたる偉大なご功績に対し改めて敬意を表し、先生の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

## 石橋俊先生ご退任に寄せて

---

自治医科大学附属病院長  
脳神経外科学教授

川合 謙介

石橋俊先生、長らくのご大任、大変お疲れ様でした。自治医科大学内科学内分泌代謝部門の教授としてのみならず、日本の内分泌代謝学領域をリードされ、多くの業績を残され、後進を育てられたことに心より敬意を表し、お礼を申し上げます。

石橋先生は東京学芸大学附属高校卒の医師の会をまとめておられ、多くの後輩から尊敬され慕われてきました。学大附高の大先輩として私は石橋先生のお名前だけは存じ上げておりましたが、2016年に自治医大に赴任して初めて直接お話しする機会をいただきました。病院のエレベータで2人きりになると暖かいお言葉や鋭い慧眼の一言を頂戴し、大学や病院の歴史や背景についてもご教示いただくことがあり、私にとっては大変心強い存在でした。私がお世話になった脳外科の先輩は石橋先生の同期の方々が多く、その点からも石橋先生を勝手に身近な存在にさせていただいておりました。

私が病院執行部に関わるようになってからは、診療科の運営等について失礼なことも申し上げたように思います。後輩の戯言としてご容赦いただければ幸いです。

羽生市に開かれるクリニックは石橋先生のお人柄とご才覚で多くの患者さんが集まることと確信しております。どうかご自身の健康にもご配慮の上、未永くご活躍されますようお願い申し上げます。

## 陸上部&山岳部 OB の健脚をいつまでも！

---

眼科 川島 秀俊



まずは石橋先生におかれましては、恙無く定年退職されますこと、誠におめでとうございます。そしてお疲れ様でございました。

私は大学の一年後輩ですので、特に可愛がっていただいたと感じています。例えば、先生が糖尿病センターのセンター長をお勤めになっておられる関係上、人事の際にいつもお世話になっておりました。年度ごとの眼科医療機器申請でも、大変厚遇していただきました。ちなみに Facebook でも友達に加えていただいています。先生はとても活発に Facebook に投稿されておられ、友達の数も多く、交友の広さが伺い知れます。さて、自治医大退職後はお祖父様ゆかりの羽生市にご開業なさる予定と伺っております。先生は大学時代は陸上部&山岳部でいらっしゃいました。どうぞ、陸上部&山岳部 OB の健脚をいつまでも維持して、ますますご発展されますことを心より祈念申し上げます。



## 石橋先生への謝意

地域医療学部門

小谷 和彦

石橋 俊先生には長きにわたってご高配を賜りました。講演会や学会をはじめとして色々な機会にご縁をいただきました。ご退任にあたり、厚く感謝を申し上げます。

大学院生の A 先生のご紹介を受けたことがあります。A 先生は、脂質と血管の代謝に関して大変に熱心に研究を進め、無事に学位の取得に至りました（現在、A 先生は、初志貫徹の精神で地域医療に身を浴しています）。ある時、A 先生が、ぼそっと言いました―「石橋先生は、専門領域に加え、別の領域にも造詣が深く、例えば歴史や文化の話であってももしっかり反応してくださる」―石橋先生に対する、A 先生の恭敬を感じた場面です。

その後、石橋先生から患者さんの遺伝子解析の依頼を受けることができました。思いがけずレアな変異が見つかり、ご連絡したところ、その変異をもとに地理的なルーツを辿れる可能性について言及されました。地域医療では、こうした変異に関するエピソードが語られることがあります。ほんの自験ですが、A 離島で特異な変異による病気が見つかり、既報を辿っていったところ、別の離島で同様の変異が検出されていると分かりました。A 離島の方にこれをご説明したところ、ご先祖様が航海中に悪天候に見舞われ、一族は別々に漂流したと聞いているとのことでした（その後、一族が再開されたかどうかまでは不詳ですが）。石橋先生はこの話にしっかり反応して下さり、探求することについてのご示唆、また診療の心得を含めて様々なコメントをいただきました―石橋先生の恭敬者は多いはずで。

ご退任後は、クリニックを構えて地域医療に尽くされるとう伺っております。最近、熟達医の地域医療への貢献は、医師のキャリアモデルの一つとして注目されています。引き続きのご指導をお願い申し上げます。



## 膵臓移植を始めよう！

消化器一般移植外科 佐久間 康成

外科医である私と石橋先生のつながりは、なんと言っても膵臓移植です。

昨年、当院が膵臓移植の実施施設として認定されましたが、そこまでの道のりについて紹介すると、石橋先生がいかに尽力してくださったか、わかっていただけるかと思います。

私は、2005年～2006年にマイアミ大学で膵臓・膵島移植の臨床に携わり、それぞれの移植の有利性について勉強してきました。1型糖尿病患者さんへの新たな治療法として、この分野で活躍する事を目指してきましたが、栃木県では獨協医大が先に施設認定を受け、完全に足踏み状態となってしまいました。しかし、その様な中においても、石橋先生は内分泌内科との膵臓・膵島移植の勉強会を設けてくださり、まずは足場を作ることができました。そして、10年以上も経過した2020年3月、膵臓移植に向け本格的に始動しました。膵臓移植は、1型糖尿病の方が適応となりますが、その多くは腎不全を伴っており、糖尿病の中でも晩期合併症を伴っている患者さんが対象になります。元々、移植医療はチーム医療が欠かせませんが、1型糖尿病で腎症を伴っている患者さんは、神経障害、網膜症、血管障害、長い病脳期間による精神疾患など実に多岐にわたる合併症を有していることが多く、各領域にわたるチーム結成が必要です。そこで、最前線で活躍されている外部講師を招聘しての講演会や当科主催の勉強会開催に尽力していただきました。結局、施設認定までは2年以上の時間を要しましたが、院内のエレベーターであった際は、「応援してます！」といつも気にかけてくださっていたのを覚えています。

移植医療をやっている私にとって細胞の異常から来る臓器不全の解明がテーマであると同時に、その延長線に移植医療があるものだと考えています。そのような中、炎症・免疫研究部にポスドクとして出向中の山田先生が脂質代謝の研究に絡むことになり、そこで石橋先生に大変お世話になったと聞きました。コレステロール代謝で必要な位置にあるDHCR7の論文で、研究初期からrevise対策まで、貴重なアドバイスをたくさんいただいたとの事で、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

最後になりますが、臨床、そして研究までお世話になった私がどのような恩返しができるかわかりませんが、1型糖尿病の患者さんことでは、引き続き一緒にさせていただければと思います。



写真左) 第一回:膵臓移植勉強会。コロナ禍のおりwebも併用しての開催となりました。現地に30名、webで20名と多くの方に参加していただきました。

## 石橋俊先生の退官に寄せて

外科学講座 消化器一般移植外科学部門

佐田 尚宏



石橋俊先生が2023年3月に退官されることになりました。在任中様々な場面でお世話になったことを感謝申し上げるとともに、新しい門出を心よりご祝福致します。石橋先生は2001年6月に内分泌代謝科教授として本学に着任されました。私もほぼ同時期(2000年4月)に本学消化器・一般外科(現在の消化器一般移植外科)に講師として着任し、消化器外科、特に肝胆膵疾患のチーフとしての活動を開始しました。内分泌代謝科と消化器外科は対極にあるようで、実は関連の深い診療科です。当科は最近の大学附属病院では稀な単一の外科診療科で、従来対象疾患の範囲が広く、通常は泌尿器科が担当することが多い副腎手術も行っています。私自身は胆道・膵臓外科医ですが、黎明期から腹腔鏡下胆嚢摘出術を実施していた経緯もあり、当科の副腎手術(主に鏡視下手術)を責任者として担当していました。褐色細胞腫、原発性アルドステロン症、Cushing症候群等の診断、評価では内分泌代謝科に大変お世話になっています。因みに、私の日本内視鏡外科学会技術認定は「副腎手術」のカテゴリーでいただいています。また、当科は2010年代前半から細谷好則教授を中心に肥満手術(スリーブ状胃切除術)を行っています。高血圧症、糖尿病、睡眠時無呼吸症候群などの肥満関連疾患を手術で改善するという発想で行われる手術で、この手術の実施においても内分泌代謝科にはお世話になっています。最近は外科手術の短期成績向上のために、術前禁煙、栄養療法、術前リハビリを含めた、積極的な生活習慣への介入が行われるようになり、外科医にとっても内分泌代謝科的な知識、見識が重要になってきました。現在も附属病院臨床栄養部では、当科の倉科憲太郎講師がNST室長を務めていたり、外科の勤務経験のある看護師さんが所属していたり、密な協力関係にあります。今後も、現在の良好な協力関係が是非維持できることを祈念しています。

個人的には石橋先生は大学の2年先輩で、FACEBOOKなどで拝見すると、広く色々な事に興味を持たれ、ランニングなど自身の健康にも配慮されていることがよく分かります。私も2年後には定年を迎えます。定年年齢の65歳は、現在の高齢化社会ではまだまだ若く、その先人生がまだまだ長く続きます。石橋先生は定年後自身のクリニックを開設されると伺いました。やはり、人生を刺激的に過ごすためには、何か新しいことを始めることが重要で、そのエネルギーを十分に持っていらっしゃるということだなと感じました。私自身も今後の人生、どのように過ごすか、残り2年の現役生活中に考えていきたいと思います。在任中は大変お世話になりました。改めて感謝するとともに、先生の新たな事業の成功と今後のご健勝を心より祈念いたします。これからもお元気でお過ごしください。

## 石橋俊先生との出会いに感謝

分子病態治療研究センター 炎症・免疫研究部

高橋 将文

石橋先生との最初の出会いは、先生が自治医大に教授として着任された 2001 年頃だったかと思います。もちろん、動脈硬化モデルとして超有名な LDL 受容体欠損マウスを作成した石橋先生のことは存じ上げていました。しかし、同じ動脈硬化の分野でも脂質代謝を専門にされている石橋先生と、循環器系の血管生物学が専門だった私との直接的な接点はあまりなく、自治医大に来られた後も動脈硬化に関連する研究会や食事会等でご一緒するくらいでした。さらに 2003 年には私が信州大学へ赴任してしまいましたので、その後も、どこかでお会いすれば挨拶をする程度のお付き合いだったかと思います。

しかしながら、2009 年に私が自治医大に戻ってからは、“公私ともに”とても親しくお付き合いをさせていただいています。まず、“公”の部分では、一緒にいくつかの研究会を企画・開催させていただき、終了後には今はなきレストラン西洋堂で遅くまでワインを飲んで語り合いました。また、新しい研究のアイデアやテーマ、そして解決策など本当に数多くのことを教えていただきました。実際、いくつかの共同研究も行って論文にすることができました。

“私”の部分では、“釣りや山登り”という 2 つの遊びで、とても仲良くさせていただきました。実は、動脈硬化の研究者には釣り好きが多く、研究会翌日の船釣りに石橋先生と一緒に参加して、船宿で BBQ をしたこともとても楽しい思い出です。また、石橋先生は学生時代に山岳部で、日本百名山の完登を目指していると同っていましたが、その最後の 100 番目となる瑞牆山(みずがきやま@山梨)にもご一緒して石橋先生の完登の喜びを分かち合いました。この時も下山後に石橋先生の奥様が BBQ を用意してくださり、大変盛り上がったのも忘れられない思い出です。



石橋先生の日本百名山完登を祝して(瑞牆山@山梨)

ここ数年、新型コロナの流行によって、いろいろな方との“公私ともに”の関係が失われてしまっています。しかしながら、これまでの石橋先生との関係を振り返ってみると、このようなお付き合いが新たなケミストリーを起こさせ、これまで思いつかなかったアイデアや共同研究を生み出していくのではないかと改めて感じています。

石橋先生との出会い、そして公私ともに素晴らしい人間関係を築かせていただいたことに心から感謝しています。また、これからも“公私ともに”の相談をさせていただきますので、ご指導のほど、よろしく願いいたします。

先生には、多くのことを教えていただくとともに、私の赴任後直ちに糖尿病センターの一員に加えていただき、学内で「こどもの糖尿病」の講演をさせていただく機会を設けてくださいました。

また多くの糖尿病内分泌代謝疾患のこどものトランジションを受け入れていただき、厚く御礼申し上げます。

小児医療から成人期のトランジション医療の重要性が言われておりますが、現実には十分に機能していない施設、地域が多い中、先生のお力添えを持ちまして、スムーズに行うことができました。

これからもご指導いただくこともあるとおもいますので、よろしく願いいたします。また今後は新たにクリニックを開き、糖尿病内分泌代謝疾患の診療を行うとともに、人々の健康で安心して暮らせる社会作りを続けると伺いました。今後のますますのご活躍お祈り申し上げます。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科 田島敏広

## 石橋俊先生との思い出

---

内科学講座腎臓内科学部門

長田 太助

石橋俊先生、長きに渡り内分泌代謝学部門の教授、内分泌代謝科の科長の重積を担われ、大変お疲れ様でした。また大変丁寧にご指導下さり、誠にありがとうございました。

私の石橋先生との最初の思い出は、平成5年頃だったと思うのですが、当時の万有製薬(現MSD)が企画した高脂血症の勉強会での出来事です。もう30年も前のことです。私は三井記念病院のレジデントをしていましたが、万有製薬のMRさんに日曜日(だったと思いますが・・・)に高脂血症の勉強会を開くので参加しませんかと誘われました。当時、万有製薬はリポバス®(シンバスタチン)に力を入れていた時期だったはずで、なんとなく研究も好きそうだった当時の私を誘ってくれたのでしょう。パンフレットを見ると、講師は山田信博先生と石橋俊先生でした。当時すでに御高名なお二人だったこともありましたが、自分が入局した東大第二内科の「なんちゃって」高脂血症の専門家ではなく、第三内科の本格派の先生からお話をうかがいたいという希望も強かったのも、是非参加させてくださいとお願いしました。休日に研修医が自ら志願して勉強会へ出席するなんて、今の自治医大では信じられないですが、当時は類似の会への若手の出席希望者は結構いたと思います。割と大きな講堂で総論をお二人の先生から賜った後、それよりも小さめの2つの教室に分かれて、少々詳しいアポ・リポ蛋白のお話を伺うことになっていました。その時、私は石橋班に割り当てられました。卒後2年目で、まったく研究もしたことがなく、難しい基礎的な論文など読んだこともないような状態でしたから、石橋先生の講義は衝撃でした。素人にも情け容赦なく、ガンガン最新の話題が振られるので、驚く以外ないという感じでした。臨床で手を動かしているだけでなく、本当にちゃんと勉強しないといかんな・・・と思ったのは間違いありません。第三内科のすごさの片鱗を痛感した瞬間でもありました。それから数年後、石橋先生は自治医大の教授として若くして赴任されたのですが、更にその十数年後に自分が同じ敷地内で腎臓内科のトップとして一緒に仕事をさせていただけるようになるとは想像すらしていませんでした。これだけリサーチ分野でも業績を残された先生が、定年後にクリニックを経営されるというのもまた驚きだったのですが、私も先輩の後ろ姿を見て真似したくもなってきました。新しい職場はそれほど遠くないとのことで、今後ともよろしくご指導ください。

石橋先生ご退任にあたり、本学における代謝内分泌学の臨床・研究・教育に長年に渡りご尽力誠に有難うございます。私が医学部を卒業して内分泌代謝分野の研究を始めたことから先生は分子生物学の王道でご活躍で、宴会の際などにはグループが違う私にも気さくに声をかけて頂いたと記憶しております。その後私は米国や他大学での研究の経験を経てから、附属さいたま医療センター内分泌代謝科に赴任した時には、いち早く勉強会にお呼び頂きレクチャーの機会を与えて頂きました。内分泌代謝科の先生方と交流の機会を早くから与えて頂きましたことに感謝申し上げます。また、本学の学生さんに糖尿病について講義をする機会を与えて頂き、10年連続医師国家試験の合格率が全国トップであることに大変微力ではありますが貢献できたことにも感謝申し上げます。また、私どもの診療科では、近隣の医療機関から高コレステロール血症や高中性脂肪血症の難治症例を紹介されることも多く、脂質異常症のエキスパートの先生にお助け頂くことをお願いしたところ、永嶋先生に赴任して頂けることになりました。更に、当院は施設の基幹病院としての役割が大きいこともあって、研究室も手狭で内分泌代謝学の研究について必ずしも理想的な環境ではないため、特に若手医師につきましては先生のところで一度ご指導頂きたい旨お話したところ、犀川先生を快く受け入れて頂きましてありがとうございます。この様に石橋先生には感謝申し上げることばかりで、ご在任中に感謝の気持ちをもっとお伝えしておけばと思ったのも後悔後に立たずといったところですが、幸い退任後は埼玉県北部の地域医療にご尽力頂くことになり、もしかしませんでしたら自治医大ご在任中よりも、特に病診連携についてですが密にできるかも知れないと勝手に期待しておるところでございます。今後も引き続きご指導を頂く機会があると思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 減量・代謝改善手術のご支援に感謝申し上げます

自治医科大学附属病院 鏡視下手術部

細谷 好則

石橋俊先生、自治医科大学での長きにわたるご勤務、誠に御疲れ様でした。この度は寄稿の機会を与您いただき大変光栄に存じます。私は胃外科、食道外科を専門にしています。減量・代謝改善手術、いわゆる肥満外科治療では多職種チーム医療が必須であり、特に内分泌代謝科の診療協力がとても重要になります。10年以上前になりますが、高度肥満症の外科治療導入について石橋先生に相談申し上げたところ、ありがたご理解をいただきました。日本の肥満外科治療のパイオニアでリーダーであられた川村功先生を本学に招聘し、石橋先生に講演会を主催していただきました。本院では腹腔鏡下 Sleeve 状胃切除を導入してから先進医療取得し、2014年の保険診療から現在に至るまで150例を超える手術治療を効果的に施行しています。2019年に第37回日本肥満症治療学会を第40回日本肥満学会(横手幸太郎先生会長)と合同開催できたことは、石橋先生のご指導ご支援の賜物であると感謝申し上げます。また、石橋先生が会長をされた第20回動脈硬化教育フォーラムでは、高度肥満症の外科治療についての教育講演の機会を与您いただきました。本邦において本院が減量・代謝改善手術を早い段階から展開でき、臨床と学術で貢献できていることに重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

末筆になりましたが、定年ご退職をお祝い申し上げますとともに、末永いご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。



2009年12月 糖尿病センター合同カンファ 川村功先生



## 朝日生命糖尿病研究所にてのおもいで

---

自治医科大学 薬剤部 村上 かおり

石橋先生

大学病院での長年のお勤め大変お疲れさまでした。

先生のご退任記念誌にメッセージをお贈りできることがとても嬉しいです。

先生との出会いはもう 30 年程前のことになりますね。東大第三内科 11 研を訪ねるといつも研究室の机に向かって先生の後ろ姿がありました。声をかけるとふり向いた優しい先生の笑顔が今でも昨日のことに蘇ってきます。あのころ私はせつせとアポ E のプロテイングをし、そのアイソフォームと糖尿病の合併症とのかかわりについて調べていました。

私の携わった実験や学会発表、そして人生初の英語の論文、*Diabetes Care* への投稿掲載の折には先生の熱心なサポートとフォローを常にいただけたこと本当に感謝しています。ありがとうございました。

先生のこれからの新しい人生を心より応援しています。

## 臨床栄養部 11 年の軌跡

---

臨床栄養部 茂木 さつき

2011 年 5 月 1 日、栄養部は組織改正により臨床栄養部に生まれ変わりました。栄養管理部門と NST 運営部門が独立して並存し、しかも多職種が 1 つの部門内に所属することはまだ珍しく、このような組織運営をしている病院は全国でも数えるほどしかありませんでした。

そして、臨床栄養部設立翌年の 2012 年 4 月から、石橋先生が臨床栄養部の 2 代目部長に就任され、その後 11 年の長きに亘り、120 名が所属する大所帯を牽引する大役をお務めいただきました。この 11 年間の臨床栄養部の歩みを思い返してみたいと思います。

- 2012 年 4 月 栄養管理実施加算が削除され、栄養管理体制の確保が入院診療料の要件となる。  
当院では栄養管理計画書は全入院患者に対し作成を継続。
- 2012 年 7 月 内分泌代謝科、腎臓内科、看護部との連携により糖尿病透析予防指導管理料加算の算定開始。
- 2014 年 10 月 給食業務委託会社が「(株)グリーンハウス」から「日清医療食品(株)」へ変更となる。
- 2015 年 1 月 入院基本料加算算定要件に基づき、入院診療計画書作成時に「特別な栄養管理の必要性有」となった患者に対し栄養管理計画書を作成することに変更。
- 2016 年 4 月 入院栄養食事指導の体制をチームによる病棟担当制とした。
- 2018 年 4 月 給食委託体制を全面委託から労務委託に変更し、病院所属の管理栄養士、栄養士と協栄会所属の調理師、調理補助員、洗浄職員での運営体制となる。
- 2020 年 3 月 新館南棟に設立された新厨房に移転し、給食管理システムを「ニュークックチルシステム」に移行。
- 2021 年 3 月 入院栄養食事指導料に付加する形での栄養情報提供加算の算定を開始。
- 2021 年 4 月 ICU で早期栄養介入実施加算の加算を開始。入院患者の栄養管理体制を、1 病棟数人の管理栄養士で介入する病棟担当制とした。

このように、診療報酬の改定による栄養管理体制の変化や、給食管理体制及びシステムの変更など、たくさんの大きな変化の中で、臨床栄養部は一致団結し、その時々に応じて体制を整えてきました。これはひとえに、石橋先生が常に栄養管理の重要性を理解し、120 名に及ぶ部員に思いを馳せながら、応援して下さったからにはほかなりません。今の臨床栄養部があるのは、まさに石橋先生のご支援とご指導のおかげです。

石橋先生、本当にありがとうございました。そして、これからも栄養の重要性を多くの患者さんに伝えていただきますようお願いいたします。

## 先輩教授石橋先生に贈る言葉

内科学講座消化器内科学部門

山本 博徳

石橋先生、この度はご退任おめでとございます。また、長年どうもお疲れさまでした。月日が経つのは速いものでわたしの中の石橋先生の印象はお若い教授というままなのですが、いつのまにか退任の日をお迎えになりましたね。私自身も2年後には先生の後を追って退任を迎えさせていただきます。長年石橋先生とは内科学講座の先輩教授としていろいろとご指導いただきました。どうもありがとうございました。

石橋先生は偉ぶることなく謙虚なお人柄でとても話しやすく気さくに接していただきました。私が入院診療運営部長を任され病棟編成の見直しをしなくてはいけなかった時にも私の立場にもご理解いただき快くご協力いただけたのは大変助かりました。どうもありがとうございました。

最近ではコロナ禍のために宴会は出来なくなりましたが、以前には内科科長会の懇親会で飲みながら楽しく懇談させていただきました。また落ち着きましたら是非一緒に飲み会をさせていただければと思います。

石橋先生とはほぼ同じ時代にテキサス大学ダラス校に留学していたという共通点もあり、テキサス大学留学医師の集まりにもお誘いいただきありがとうございました。残念ながらまだ参加は出来ませんが、コロナが落ち着きましたら是非参加させていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

ご退任されたあとにご開業されるとお聞きしました。先生のお人柄でしたら患者さんから親しまれ信頼されてうまくいくことは間違いないと思いますが、働き過ぎには注意してお元気で過ごしてください。それでは重ね重ねお世話になりどうもありがとうございました。

